

## Nationwide study of surgery for primary infected abdominal aortic and common iliac artery aneurysms

A. Hosaka<sup>1\*</sup>, H. Kumamaru<sup>2</sup>, A. Takahashi<sup>2,3</sup>, N. Azuma<sup>4</sup>, H. Obara<sup>5</sup>, T. Miyata<sup>6</sup>, Y. Obitsu<sup>7</sup>, N. Zempo<sup>8</sup>, H. Miyata<sup>2,3</sup> and K. Komori<sup>9</sup>, on behalf of the Japanese Society for Vascular Surgery Database Management Committee

この度、日本血管外科学会モデル研究の成果として、上記論文がBJSにpublishされましたので、ご報告させていただきます。

学会員の皆様がNCDに入力いただいているデータをもっと有効に活用できないかという考えのもと、日本血管外科学会データベース委員会およびモデル研究委員会において活動してまいりました。

特に、各施設毎では少数例しか通常経験できないけれども重要な疾患に光りを当てて、全国規模でデータを収集し、集まった多数例を統計処理することで、これまで得られなかったエビデンスを得ることができ、学会としてデータ登録いただいている会員の皆様にも貢献できるのではないかと考えたのが始まりであります。

一方、現在NCDに登録される血管外科領域のデータ項数は非常に少なく、質の高い研究が難しいのが現状であります。その弱点を克服するために、データ追加型の後ろ向き研究という手法を用いてデータ登録を開始しました。執筆者一同、世界にも類をみない規模で、臨床上治療方法選定で悩むことの多い感染性動脈瘤について、有用なエビデンスを示すことができたと考えております。

このような経験を参考に、学会員の皆様が自ら提案し、NCD登録データを用いた臨床研究を行う契機となれば、モデル研究としての役割を大いに果たすことができたと考えており、日本血管外科学会による臨床研究応募数の増加、データ利用の活性化が起こることを祈念いたしております。

モデル研究委員長 東信良

### 筆頭著者からのご報告

日本血管外科学会データベース管理運営委員会では、NCDを用いた研究について2017年より検討を進め、「感染性腹部大動脈・総腸骨動脈瘤の治療と予後」、「膝窩動脈捕捉症候群の術式と予後」の2つのテーマを選定しました。2018年2月の日本血管外科学会理事会にて、両研究の概要が承認されました。その後、感染性腹部大動脈瘤・総腸骨動脈瘤の研究については、2018年4月に東京都立多摩総合医療センターの倫理委員会で承認され、同年6月からNCDのスタッフと相談しながら追加情報収集のためのデータ入力システムを作成しました。2011年から17年の7年間で腹部大動脈瘤あるいは腸骨動脈瘤としてNCDに登録され、動脈瘤の病因として「感染性」が選択された手術症例は、458施設から1835例ありました。各施設の先生方に本研究へのご協力を依頼し、341施設にご賛同いただきました。このうち診断基準を満たした292施設の862例について、周術期、長期予後についての詳細な追加データ登録をお願いいたしました。2018年9月から19年1月までの間に追加データをご入力いただき、4月にかけてデータクリーニングをし、以後約半年間でNCDの先生方とデータの解析をしました。患者背景の特徴や予後に影響するリスク因子についてまとめ、2020年11月の第48回日本血管外科学会学術総会、およびBr J Surg誌2021年3月号で発表いたしました。研究結果については、論文や学術総会の抄録をご覧いただければと存じます。

これまでに発表された感染性腹部大動脈瘤のコホート研究で最大のものは、2016年にスウェーデンから報告された108名を対象にした研究です（*Circulation*. 2016;134:1822-32）。2019年に本症についてのsystematic reviewが発表されましたが、対象患者は合計500例前後で、また患者背景や研究デザインが均一でないため、メタ解析はできなかったという結論でした（*Eur J Vasc Endovasc Surg*. 2019;58:426-35）。本研究では、一定の診断基準で選択した症例を対象としている点、これまでにない862例という多くの症例を対象としているという点で、有意義であったと考えます。

NCDを活用した研究では、NCDに対し支払う費用が発生します。本研究は日本血管外科学会のモデル事業ということで、費用は日本血管外科学会から拠出されています。

以上、本モデル研究の経過についてご報告いたしました。研究成果が、今後の診療にあたって学会員の皆様に多少なりともお役に立てば幸いです。最後に、お忙しい中、本研究にご協力いただいた全国341施設の先生方、スタッフの皆様に、委員会より心から感謝申し上げます。

モデル研究委員会 保坂晃弘